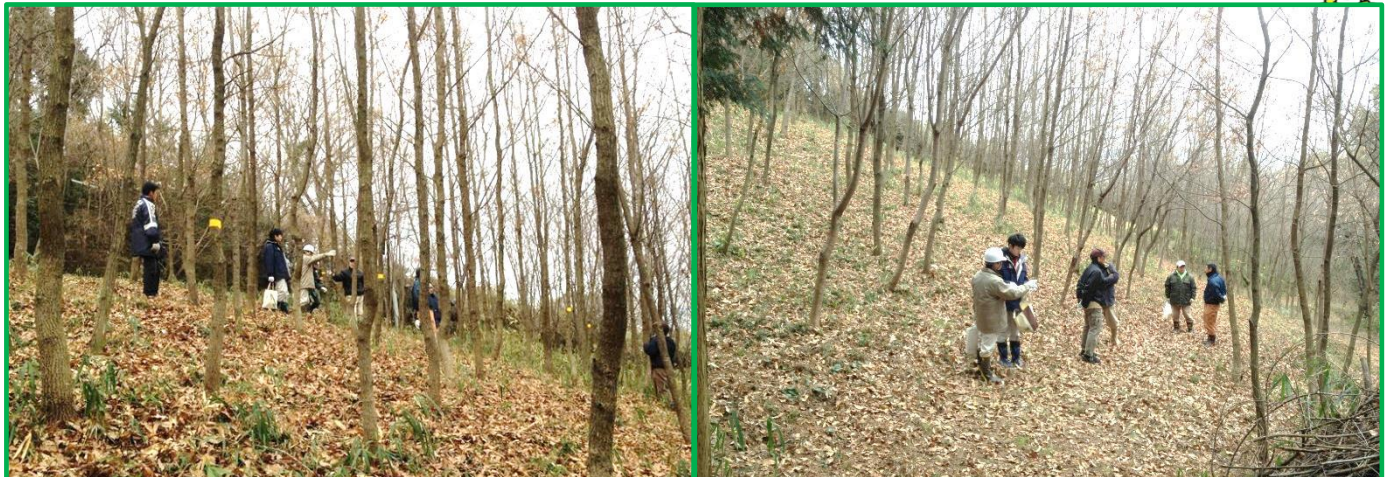




1. 活動日時：2016年1月23日（土） 10：00～12：00
2. 参加者：12名 ・現役GS：3名 社友GS：9名
：大阪府 農と緑の総合事務所 地域政策室 室長 青山さん・主査 林さん
：岸和田市 環境部環境保全課 主幹 倉橋さん・村井さん
建設部 水とみどり課 子亀さん
3. 活動内容
 - ・今回は、この冬最強の寒波により午後から崩れるという天気予報が出ていたことから、大阪府・岸和田市の関係者の方にお越しいただき計画した“間伐対象の木の選別作業”に絞って活動し、昼食後解散しました。
 - ・活動終了時の講評では、農と緑の青山さんから、他の企業の森も見させてもらうことがあるがそれに比べると、記念樹ゾーンは公園のようだし、植栽地もよく整備されていると思う。とのお褒めの言葉をいただきました。また林さんからは、今後の進め方について、健康な自然林は1ha 当たり 100 本程度とされているので、この規模では最終 60 本程度が望ましい。従い間伐は今回で終わりとしせず、生育状況を見ながら継続して行うことが大切。とのサゼッションを頂きました。
 - ・岸和田市の倉橋さんからは、林道側から見るとあまり整備されていないように見えるが、内部に入ると良く整備されている。との評価を頂きました。
 - ・神於山シャープの森は、当初森林公園をイメージしていましたが、「フクロウの棲む森づくり」という方針が打ち出された後は、野生のフクロウが安心して子育てが出来るように、林道沿いの幅5m程度は目隠しゾーンとして帯状に手を入れずに残し、その内側のみ手を入れてきました。倉橋主幹の評価は、現在の森づくりが目標通り進んでいることを認めて頂いたものであり、嬉しい限りです。
4. 今後の活動
 - ・今回の活動で、かなりの量の間伐対象木が決まりましたので、2～3月、これらを計画的に間伐することになりますが、フクロウの営巣活動が本格化する時期でもありますから、その動きも見ないとはいけません。
 - ・従い、フクロウの巣箱に近い木の間伐は、場合によっては雛が巣立った後になります。

■ 上部植栽地の間伐対象木の選定。

・間伐する木には、黄色のテープを巻きました。



まず植栽地のロケーションと、モニタリングゾーンを含め植栽地の現状を確認。



手分けして間伐対象になる細い木・込み合った木・枯れ始めている木にテープを巻きました。かなり迷う作業です。

■フクロウの棲む森づくりについての取り組みのご紹介。 ・現場で、基地で、映像をご覧頂きながらご紹介。



現場で営巣した横穴式の巣箱と新しく作った上穴式にした巣箱、及び昨年カメラ映像をご紹介。



基地で昨年のフクロウの営巣映像をまとめたDVDを見て頂きました。皆さん興味を持って見ておられました。

■基地で記念写真

・終始、和やかな雰囲気で行われました。皆さん、お疲れ様でした。



- ・今回大阪府及び岸和田市の関係者をお招きした結果、森の現状を見て頂き、認識を深めて頂いただけでなく、これまでの取り組みに間違いがなかったことを確認できたのは大きな成果です。
- ・今後も今まで通り自信を持って取り組みを進めて行きたいと思えます。
- ・また記念樹ゾーンと林道沿いの植栽地間の「多目的広場」は、今まで神於山で活動している各団体の共有スペースと置いていましたが、シャープの森のエリアに含まれていることが判りました。
- ・ただそうであっても、今後も神於山で里山再生に取り組む各団体の共有スペースとした方が良さそうです。

左から大阪府の 林さん・青山さん、岸和田市の小亀さん・村井さん・倉橋さん